建設改良計画　上郷第１配水池更新事業（R5～R6）

更新前の上郷第1配水池は1967年建設で老朽化が著しく非耐震であること、給水区域の一日最大給水量に対する施設能力（配水池容量）が不足していることから、適正容量を備え耐震化された配水池に更新しました。

旧上郷第１配水池
（容量62.5m3、1池構造）

新上郷第１配水池
（容量421m3、2池構造）

工事前

工事後

R５.６月

R５.９月

R６.３月

R６.６月

建設改良計画　時又配水池更新事業（R5～R6）

時又配水池更新事業は、水道施設更新に係る基本方針でダウンサイジングの施設として位置付けており、配水池を更新するのではなく、減圧弁で配水池の減圧機能を持たせて配水を行います。
令和５年度～６年度に減圧弁の設置及び接続管路工事を実施し、令和６年度に系統切替を行い時又配水池を撤去しました。

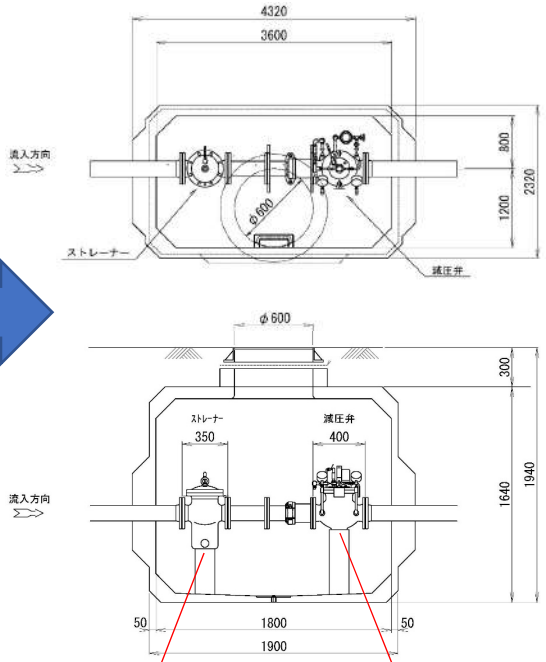
時又配水池（更新前）

1962年建設（2池66.0ｔ）

更新後（撤去完了R7.3月）

時又減圧弁（更新後）

減圧弁室構造図



減圧弁室（躯体）

減圧弁

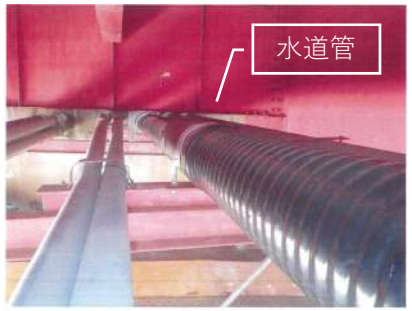
建設改良計画　基幹管路耐震化事業（R5～R28）

基幹管路耐震化事業は水源から浄水場、浄水場から配水池、配水池から配水池を結ぶ重要施設管路（導水管、送水管等）で地震や風水害、漏水などで事故が発生すると大規模な断水などを引き起こす可能性がある管路です。この重要施設管路の耐震化を進めています。

水神橋水管橋（北の原配水池から下久堅受水槽を結ぶ管路）

工事前（水輸送用鋼管 150A　L=322m）

工事後（アラミドがい装ポリエチレン管　W150S　L=322m）



工事の様子（足場工）

砂払浄水場から下黒田配水池を結ぶ管路

耐震性ダクタイル鋳鉄管GX型　φ400mm

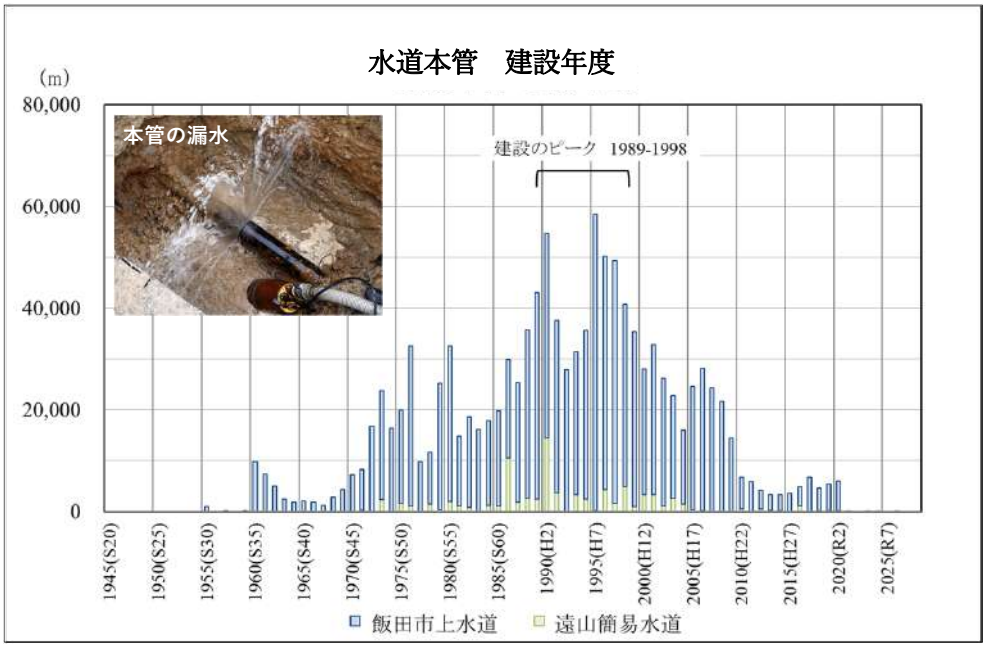
建設改良計画　老朽管布設替事業（R5～R28）

飯田市の水道は1955年（昭和30年）代から本格的に整備が始まり、古いもので60年を経過した管が残存しています。

今後は建設ピークの水道管が一気に老朽化することが想定されるため更新事業を平準化し、飯田市水道ビジョンの基本目標「安全でおいしい水を安定して供給する」を実行するため、老朽管の布設替事業を計画的に実施していく必要があります。

事業実施にあたっては、物理的評価（実耐用年数）と重要度評価（管分類、口径等）により優先度の判定を行い、順位の高い個所から施工箇所が集中しないよう計画的に実施しています。

水道本管　建設年度



水管橋の布設替

工事前（亜鉛メッキ鋼管φ150mm）

工事後（ステンレス鋼管φ150mm）

管路の布設替（耐震性ダクタイル鋳鉄管GX型）

上郷黒田　φ150mm

今宮町　φ75mm

老朽管布設替実績

令和２年度	L=2,765ｍ	令和３年度	L=2,838ｍ
令和４年度	L=3,169ｍ	令和５年度	L=2,389ｍ